

# ■ 2021年度 入試問題分析シート ■

早稲田大学

社会科学部

科目	数 学
----	-----

## 総 括

試験時間	60分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	40点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

### <総 論>

昨年度よりは若干取り組みやすくなり、満点も可能であるが、全体的には近年の早大社学のレベル程度といえるだろう。次年度以降の対策としては、今年度よりもやや難しい昨年度のレベルを早大社学の標準レベルと認識しておくべきである。大問3題はこれまでと同数であり、小設問の総計10問も昨年と同じである。「大問が3題、大問ごとに小設問が3問前後」という形式が定着している。

### <特記事項・トピックス>

5年ぶりに数学Bのベクトルからの出題が見られた。ベクトルはかつて本大学の頻出分野であった。一方で、出題頻度の高い確率分野からの出題が2年連続見られなかった。また、第3問の整数問題も久しぶりの出題であった。

図形に絡む問題が少なくとも1題は出題されるという点は、本大学の傾向通りである。

### <合格への学習対策>

基本的、標準的な問題が中心であるとともに、整数問題や式の計算など、見慣れない数式を扱う問題もときには出題される。数年単位でみると数学ⅠAⅡB全分野から出題されており、分野間の融合問題も増えている。出題分野にヤマを張るのではなく、教科書を中心に据えて基礎を徹底し、標準的な問題集等による演習を全分野にわたって積んでおくのがよい。基本知識を定着させるとともに、計算処理力・思考力を鍛えておくことが大切である。全問記述式であることから結果に至る過程を大事にして学習することが肝要である。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	Ⅱ Ⅰ	式と証明 三角関数 2次関数 図形と式 微積分	複数の分野にまたがる総合問題であるが、全体としては平易である。(1)は解と係数の関係及び三角関数の基礎知識を用いるだけで落とせない。(2)も動点の座標を文字でおくという軌跡問題の基本に基づけばよい。軌跡の限界に注意する。(3)の定積分も丁寧に計算するだけであり、最後は簡単な三角関数の方程式を解くだけである。 $\theta$ の範囲に注意する。	やや易
2	記述	B Ⅰ	ベクトル 2次関数	平面ベクトルの典型問題である。(1)は教科書の例題にもある。メネラウスの定理を利用してもよい。(2)は与えられた内積の等式を書き直せばよい。(3)は(2)の結果と内積の定義に戻り、三角形の成立条件に基づいて考えればよい。(4)はベクトルによる面積公式を利用するとよいだろう。	標準
3	記述	A Ⅱ	整数 整式の除法	位取り記数法に関する整数問題である。(1)は整式に関する割り算の原理を利用して、 $k-1$ が5の約数にならないことを掴むことがポイントである。(2)は整数の割り算の原理により、余りは0以上 $k+1$ 未満であることに注意する。(3)も整式及び整数に関する割り算の原理に基づいて考察すればよい。整式の割り算の原理と整数の割り算の原理を混同しないように注意する。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。